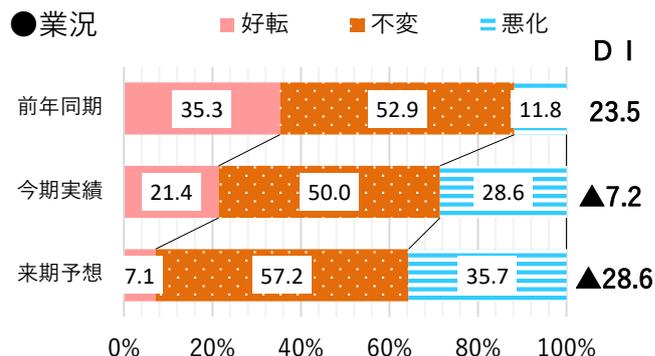


運輸・倉庫業

業況、売上、採算

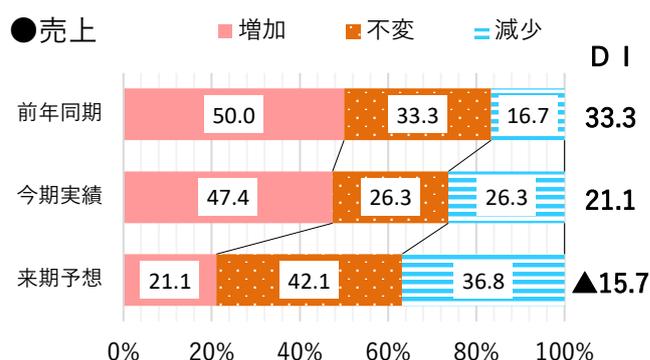
今期（2023.7～9）の業況判断DIは▲7.2で、前年同期（2022.7～9）と比べ30.7ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期（2023.10～12）は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



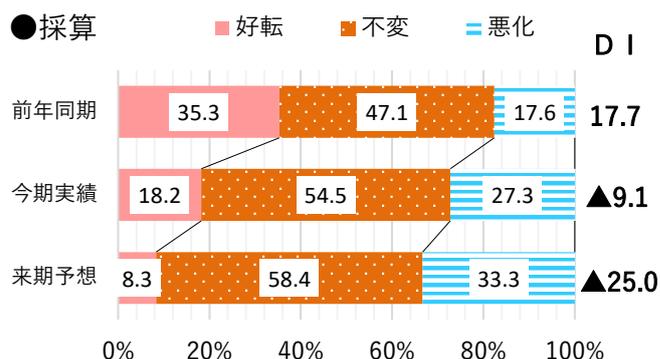
今期の売上高DIは21.1で、前年同期と比べ12.2ポイント低下しました。

来期は、売上が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。

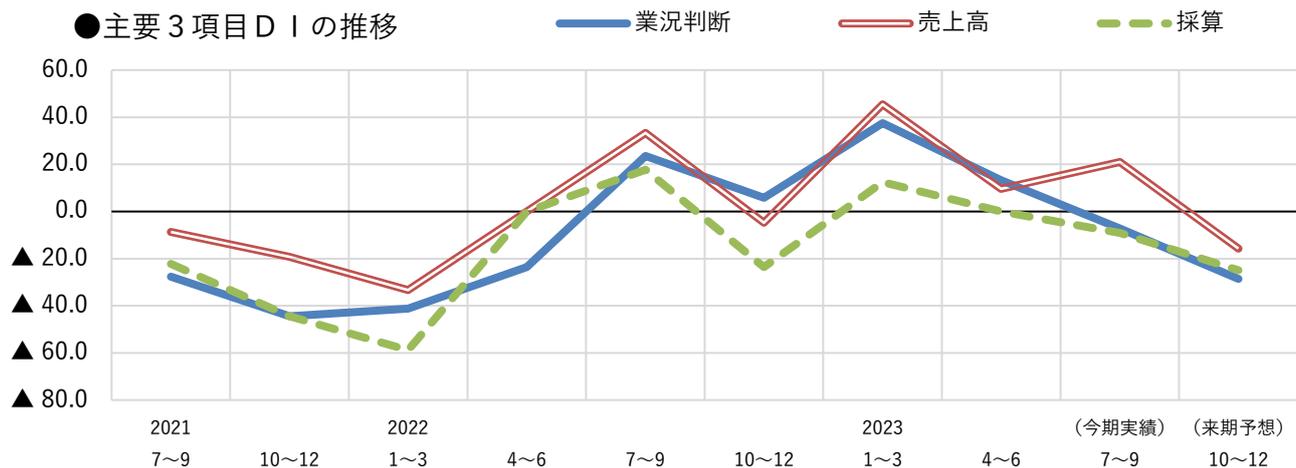


今期の採算DIは▲9.1で、前年同期と比べ26.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



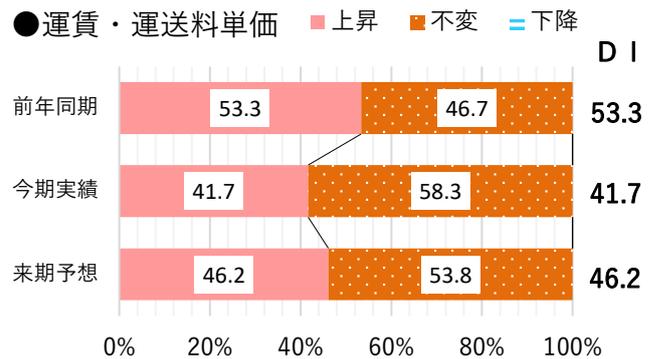
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

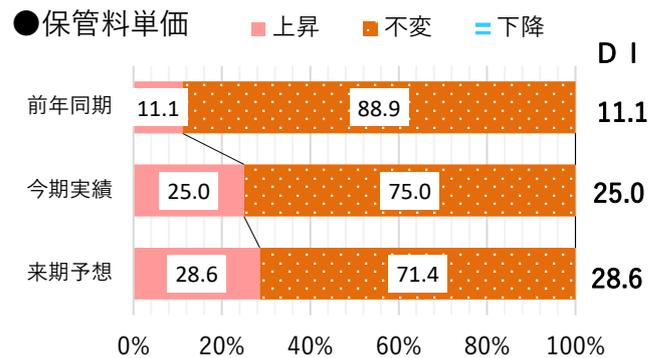
今期の運賃・運送料単価DIは41.7で、前年同期と比べ11.6ポイント低下しました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の保管料単価DIは25.0で、前年同期と比べ13.9ポイント上昇しました。

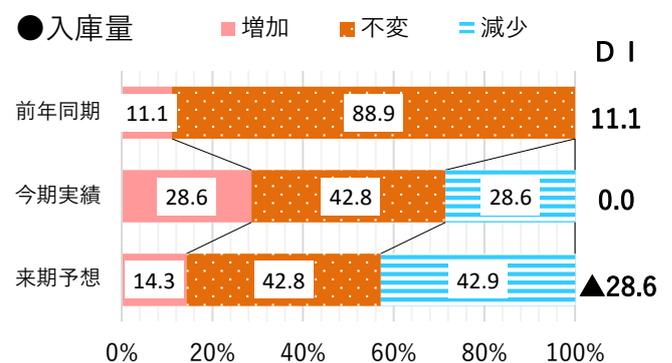
来期は、保管料単価の上昇傾向が強まると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

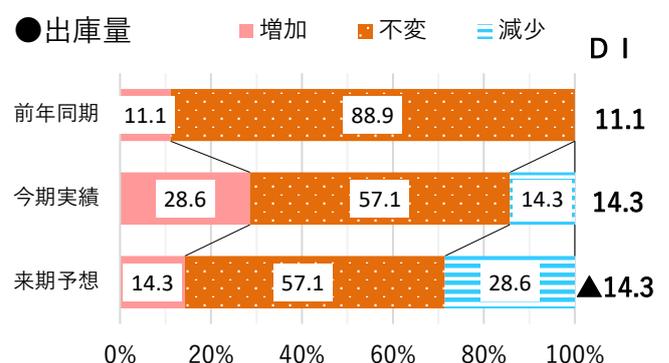
今期の入庫量DIは0.0で、前年同期と比べ11.1ポイント低下しました。

来期は、入庫量がマイナスに転じると予想しています。



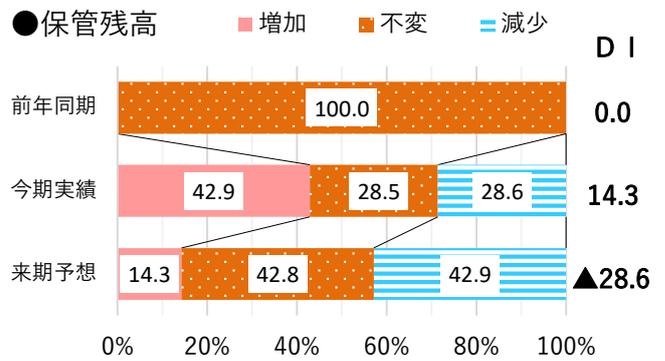
今期の出庫量DIは14.3で、前年同期と比べ3.2ポイント上昇しました。

来期は、出庫量がマイナスに転じると予想しています。



今期の保管残高DIは14.3で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しました。

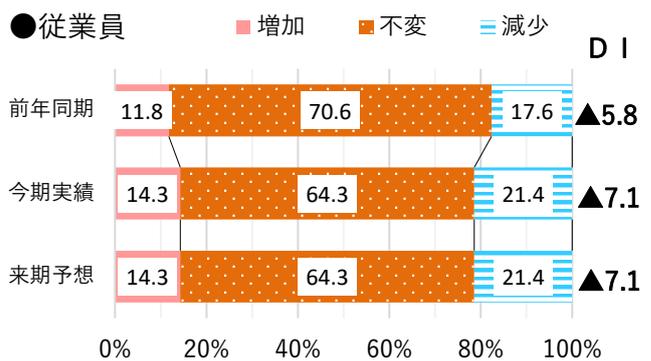
来期は、保管残高が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。



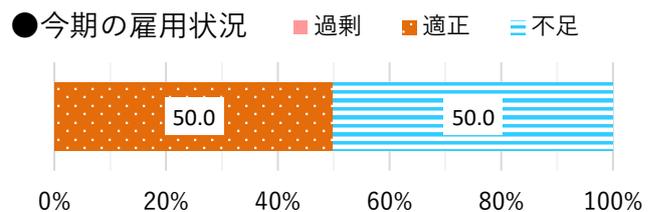
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲7.1で、前年同期と比べ1.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は50.0%でした。



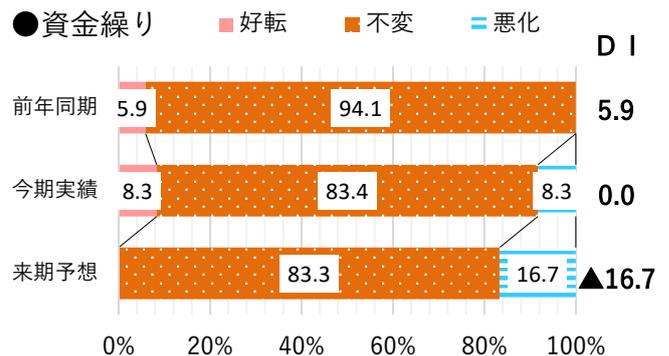
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、半数の企業は従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	2

資金繰り、設備投資

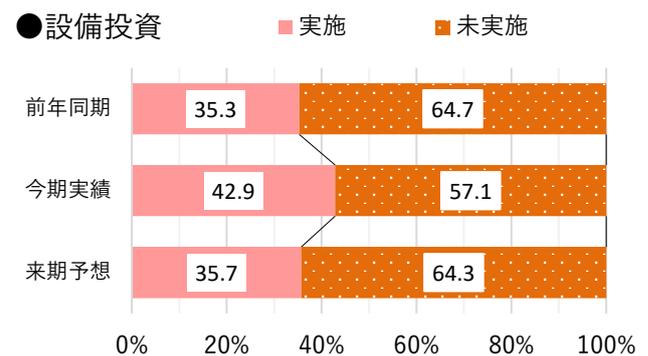
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ5.9ポイント低下しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



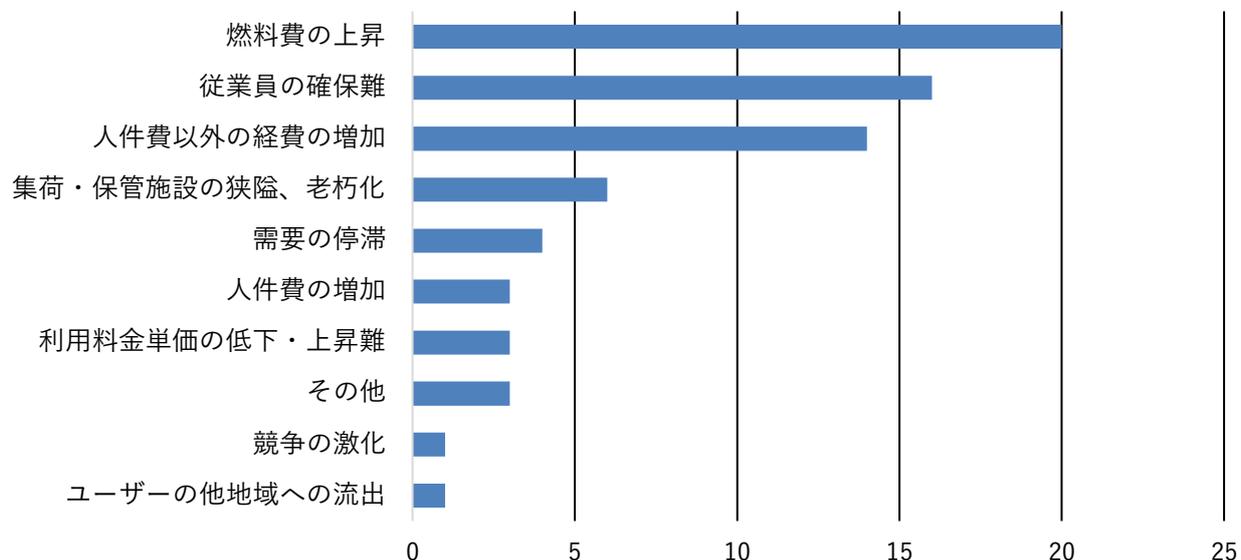
設備投資を実施した企業の割合は42.9%で、前年同期と比べ7.6%上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「土地」、「店舗」、「集荷・保管施設」、「付帯施設」、「O A 機器」「その他」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は35.7%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 人材確保は概ね順調だが、人件費や燃料費、車両購入の減価償却費の増加といった要因で今期の値上げは難しかった。前期に値上げした分により、売上は増加した。(道路貨物運送)
- 秋を迎え農産品の荷動きが活発になり、売上は好転した。運賃は改定していない。経費が増加している。(道路貨物運送)
- 燃料や車両、タイヤの修理代金の上昇により、業況は厳しい。(道路貨物運送)
- 農産物の出荷時期が昨年と比べ若干早まったため、輸送量が増加した。(道路貨物運送)
- 社員不足により時間外労働が増加している。最低賃金や燃料費をはじめとする経費の上昇により利益が見込めない。(道路旅客運送)
- 人材確保により増収となった。(道路旅客運送)
- 保管料単価が上昇し、収入が増加した。(倉庫)
- 入庫量が減少した。(倉庫)
- 対ロシア輸出規制に伴い取扱貨物量が減少し、売上が落ち込んだ。(港湾運送)
- 燃料油の高騰で経費が上昇した。輸送船舶の予定外の検査があり、輸送能力が減少した。旅客部門では、新型コロナウイルスによる行動制限がなくなったことによる反動増と、インターハイが北海道で開催されたことで特需があった。(水運)

[来期の業況について]

- 売上は順調に推移すると見ているが、燃料油脂、電気代金の上昇傾向が終息せず、差益の確保に苦労すると思われる。(道路貨物運送)
- 運賃改定を取引先に依頼している。2024年問題に対応するため、人件費が増加する。(道路貨物運送)
- 前年並みの状況を見込む。(道路貨物運送)
- 社員不足、経費の増加傾向は続くと思われる。(道路旅客運送)
- 引き続き入庫量の減少が予想される。(倉庫)
- 対ロシア貿易の先行き不透明感に加え、市内の飼料工場閉鎖に伴う穀物類の輸入減少が見込まれるため、売上の減少が続くと思われる。(港湾運送)
- 旅客は引き続き増加傾向が続くと思うが、貨物輸送は燃料価格の上昇と、輸送能力の低下により売上の減少が見込まれる。(水運)